

課題情報シート

テーマ名 :	丸亀市駅前商店街活性化に対する一提案 - 新商店街施設創設と旧商店街のリノベーション -				
担当指導員名 :	山下 世為志	実施年度 :	24 年度		
施設名 :	四国職業能力開発大学校				
課程名 :	専門課程	訓練科名 :	住居環境科		
課題の区分 :	総合制作実習課題	学生数 :	3	時間 :	22 単位 (396h)

課題制作・開発のポイント

【開発（制作）のポイント】

現中心市街地の状況を調査、分析、把握し、新商店街施設創設と旧商店街のリノベーションによる新しい町づくり提案をし、この実習テーマを完成することにより総合的な設計技術の教育訓練効果を得ることを目的としました。

【訓練（指導）のポイント】

当初、総合制作実習でやりたい課題がバラバラで個別の総合制作実習を希望していましたが、基本的課題の取り組みと大きな課題の中でのそれぞれの役割分担を把握させることにより、最終的には一つの目標に向け取り組み、良い成果を構築できたと思います。

課題に関する問い合わせ先

施設名 : 四国職業能力開発大学校
住所 : 〒763-0093 香川県丸亀市郡家町 3202 番地
電話番号 : 0877-24-6290 (代表)
施設 Web アドレス : <http://www3.jeed.or.jp/kagawa/college/>

課題制作・開発の「予稿」および「テーマ設定シート」

次のページ以降に、本課題の「予稿」および「テーマ設定シート」を掲載しています。

丸亀市駅前商店街活性化に対する一提案

一新商業街施設創設と旧商店街のリノベーション

四国職業能力開発大学校 住居環境科

1. はじめに

現在、全国の地方商店街は、大型ショッピングセンター等の郊外進出による衰退化が問題になっている。丸亀駅前商店街もその一つであり、市街地にある3つの商店街は、活気が失われる一方である。商店街の活性化を図るために重要なことは、利用者の求める需要を把握し、明るく開放的で、訪れたいような場所をつくるのが重要だ。今回は現在の商店街の問題点を改善し、新しい施設創設と、商店のリノベーション計画を通して、丸亀市民、その他の地域の人々に訪れてもらえるような、地域特性を生かした活性化につながる提案を行うことにした。

2. 商店街の現状分析

現在、商店街は、とみや町商店街、通町商店街、浜町商店街から成り立っている。とみや町はほぼ店が閉店しており、昼間でも暗く、人通りも少ない。通るにも少し怖さを感じる程だ。JR丸亀駅前には、観光客を受け入れるどころか、地元の人にも受け入れてもらえるような環境が整っていないように感じる。そこで、両者に受け入れてもらえるような商店街活性化計画をする必要がある。



図1 市街地と商店街

3. 丸亀駅前商店街の活性化について

- ① □商店街を昔懐かしい、昭和レトロにリノベーションを行う。
- ② □「MIMOCA」から東西にのびる道に新しい通りをつくりこの街の象徴となる新しいモニュメントを作成する。
- ③ □有名うどん店を一箇所に集めた観光客増加をねらった新しい商業施設の創設。

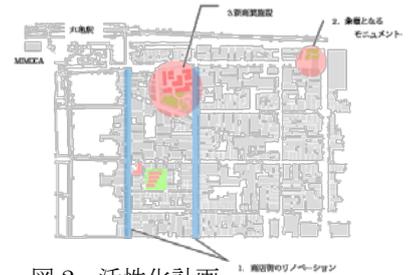


図2 活性化計画

3-1. 昭和レトロ商店街のリノベーション

今回、昭和レトロの商店街を作成するにあたって、あくまでも、リノベーションであるということに着目し、「現在ある商店をどう再利用するか。」という事が最大の問題だった。現状の商店街はアーケードによって、光が断たれ、老朽化した外装が、さらに暗いイメージを与える。



図3 旧商店街とリノベーション商店街

古い建具や、瓦屋根、看板などで大きく印象が変わる、アーケードを取り払うことで、明るく開放的になった。

3-2. 新しい通りのモニュメントの作成

MIMOCA から、浜町商店街をめぐる通りを、商店街の昭和レトロリノベーションに対して、近代的な新しい通りとして位置づけた。そこで、計画では、東側に新しい出入口を設け、そこに「円」という漢字をモチーフに象徴となるモニュメントを作成することにした。「円」はお金を表す「商売繁盛」と「輪」を表す「市民のコミュニティ」の意味が込められている。図4は、ある決められた一点に人間の平均眼高を置き、そこから見たときに、一列に並べられたモニュメントが重なり合い、「円」に見えるようになっている。

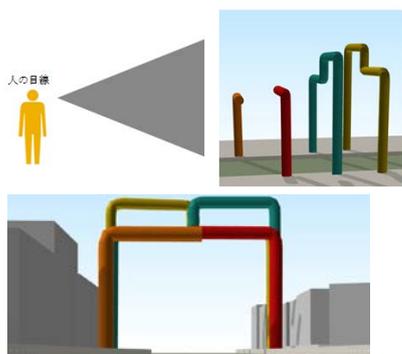


図4 ビスタから見たモニュメント

3-3. 新商業施設の創設

コンセプト

この計画は、県外から来る人でも、有名店の「うどん」を交通手段に困ることなく楽しめるように、この駅前で一ヶ所に集めたものである。またこの計画は、飲食店としての用途のほかに、商店街内の景観の配慮、新しい商店街のあり方を考え、街の中にある庭「マチニワ」を設けた。これは施設南側にあるスペースに、自然を感じられるような憩いの庭をつくり、週末に家族で見物したり、商店街の活性化イベントを行えるようになっている。

外観・構造

これは、二つの昭和レトロ商店街の間に挟まれるように位置する。また、地域性を出そうと思い、日本一高さを誇る「丸亀城」を意識し、南側にはお堀をイメージした水盤を設けている。これら二

つの関係性から、日本建築の美しさを取り入れるとともに、すぐ北に面する「新しい通り」の関係性から「和モダン」な外観デザインにすることにした。真ん中に食事スペースである、L字のパーゴラを囲むように三つの木造長屋が取り囲み、正面にはSRC造の店舗を配置した。また、その隣には、うどんづくり体験や、ワークショップなどを開けるように、木造の妻側がガラス張りの「小屋」を配置した。これは徳島のうだつの町にあった「道の駅」を参考にしたもので、梁が外からも見えるオープンな建物とした。



図5 マチニワ配置図兼1・2階平面図



写真1 模型(RC 庇)



写真2 模型(正面入口)

4. おわりに

丸亀駅前商店街の活性化は、大規模な建造・改築などにより、多大な費用と労力必要だ。現実的に難しい問題だが、長期目線の計画とこのまちの需要にあったものを作れば、人が自然に集まり、町の活性化につながると思う。丸亀市の更なる発展に可能性を秘めた問題提示であると考えている。

文献

- 1) 丸亀市HP
- 2) 丸亀TMO思想
- 3) 大分・豊後高田市「昭和の町」商店街HP
- 4) 徳島「うだつの町」美濃市

課題実習「テーマ設定シート」

作成日： 10月 4日

科名：住居環境科

教科の科目		実習テーマ名	
総合制作実習		丸亀市駅前商店街活性化に対する一提案 - 新商店街施設創設と旧商店街のリノベーション -	
担当教員		担当学生	
住居環境科 山下 世為志		3名	
課題実習の技能・技術習得目標			
建築物や周辺状況の調査法や分析を習得し、建築計画やリノベーション技術に繋げて町の活性化の提案をすること目標とする。 また、課題に取り組む中で3次元CADによるモデリングやCG処理によるプレゼンテーション技術も習得目標とする。			
実習テーマの設定背景・取組目標			
実習テーマの設定背景			
丸亀市駅前商店街は、大型のショッピングセンターなどの郊外進出により、ほとんどシャッター街化してしまうというドーナツ化現象が起きており、街の活性化が強く求められている。			
実習テーマの特徴・概要			
本研究の目標は、現中心市街地の状況を調査、分析、把握し、新商店街施設創設と旧商店街のリノベーションによる新しい町づくり提案を目的とし、この実習テーマを完成することにより総合的な設計技術の教育訓練効果が得られる。			
No	取組目標		
①	建築法規や周辺状況を調査して報告ができる。		
②	規模計画ができる。		
③	配置計画ができる。		
④	商業施設や住宅の動線計画ができる。		
⑤	各種設計図面が作成できる。		
⑥	3次元CADによるモデリングができる。		
⑦	3次元CADによる各種図面（平面図、断面図、立面図）が作成できる。		
⑧	3次元CADによるCGパース図面の作成ができる。		
⑨	3次元CADによるアニメーションの作成ができる。		
⑩	全体的プレゼンテーションができ、報告書や発表会予稿原稿を作成し、発表会では制限時間内に伝えたい内容を説明する。		